

テレどまつりにご参加いただくチームの皆様へ

公益財団法人にっぽんど真ん中祭り文化財団
(監修: 一般財団法人愛知万博記念災害救急医療研究財団)

第22回にっぽんど真ん中祭り（テレどまつり） 感染防止のためのチーム練習（ビデオ撮影時）ガイドライン

5月25日、全ての都道府県の緊急事態宣言が解除されました。徹底した感染防止対策の実施を前提としながらも、段階的に社会経済活動のレベルを上げていく措置がとられています。

そのような中、5月29日付で、今年のにっぽんど真ん中祭りを「テレどまつり」としてオンラインで開催（市街地で開催することを中止）する旨を発表させていただきました。社会経済活動の段階的なレベル引き上げに伴い、チームの皆さんの活動も徐々に開始される頃かと思えます。

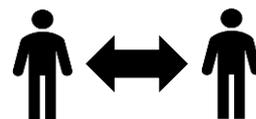
感染拡大を防止していくためには、あらゆるリスクに備え、徹底した感染防止対策を講じることが不可欠です。政府や自治体が発表する各種ガイドラインと共に、本書をお役立ていただき、対策の徹底をお願いいたします。



感染防止対策リスト

①社会的距離の確保対策

- 2m以上、最低1mの物理的距離を確保すること（激しいダンス等、呼気が激しくなるパートはさらに距離を離す）
- 原則として屋外での活動を基本とすること
- 屋内で活動する場合は、出入口や窓を開放するなど十分に換気すること
- 使用できるロッカーやベンチ、テーブルなどの使用を制限すること
- 荷物を置いたり休憩したりする場所を、各個人に割り当てて、共有しないようにすること
- 活動（準備運動・練習等）時の身体的接触（補助、握手、ハイタッチ等）の禁止
- タオル同士の接触・取り違い防止策の策定と徹底
- 道具類は絶対に共有しない
- 道具類の接触・取り違い防止策の策定と徹底
- 活動参加者の計画的な時差来場
- 出入口を分けるなど、活動参加者の動線が重ならないようにすること



②体調管理と感染対策

- 活動当日に限らず、日々の「健康状態」を記録し、異常が見られた場合は躊躇なく参加を見合わせること
(別紙「健康観察表」参照)
- 手指消毒と手洗いの徹底：正しい方法で頻回に行う（例：練習の前後、休憩の前後など）
(参考：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/000501122.pdf>)
- 練習中は可能な限り手で顔を触らない
- ロビー、休憩室での滞留や食事の制限
- 水筒やペットボトルを絶対に飲み回ししない
- キャッシュレス、ペーパーレスの推進



③感染の発生に備えた情報収集と情報提供

- 活動参加者の把握（名前、連絡先）
- 不特定の人（チームに所属していない人）を活動に参加させないこと
- SNS等を活用した、活動参加者に対する感染発生状況等の情報提供



④マスクの利用

- 運動時にマスクを着用すると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇し、酸素濃度が下がるため、踊るときには外した方が望ましい
- 練習時にマスクを着けるのであれば、通気性の良い布製が望ましい
- 外したマスクを、衛生的に管理すること
- マスクを外しているときは会話を慎むように習慣化する

⑤熱中症予防の観点（重要）

- マスクは飛沫の拡散予防に有効とされて、「新しい生活様式」でも基本的な感染対策として着用が求められています。ただし、マスクを着用していない場合と比べると、上述④のように、身体に負担がかかることがあります。
- 厚生労働省では、高温又多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるとして、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外すように促しています。
※強度が高い運動の場合は、呼吸が激しくなるため、さらに距離を離すようお願いいたします。
- マスクを着用する場合には、激しいダンス等の強い負荷のかかる運動は避けていただくと共に、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をするなど、熱中症予防に努めてください。
- 息苦しさを感じた時は、すぐにマスクを外して休憩するなど、決して無理をしないでください。
- また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩することも必要です。
- 活動の時期や時間帯を工夫して、暑い環境を避けると共に、涼しい服装を心がけてください。
- 熱中症予防のためにはエアコンの活用が効果的ですが、エアコンの機種によっては、換気機能を装備していないものもあります。感染防止対策のためには、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。換気により室内温度が高くなりがちなので、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしましょう。



感染防止対策を実践するためのポイント

- 例えば「google フォーム」等のアンケートアプリを使い、活動参加希望者を事前に把握（必要に応じて人数調整）すると共に、健康観察の結果（異常有無の把握）をペーパーレスで実施する。（個人情報チーム内外問わず閲覧できないようにするなど、情報の取り扱いには十分配慮してください。※「グループLINE」等のSNSは、投稿内容が所属メンバーから自由に閲覧できてしまうことから、不向きと言えます。）
- 例えば体育館で練習する場合、練習エリアを2m区画に区切るだけでなく、休憩場所（荷物置き場）も個人用に区切ることで、社会的距離を保ちながら、荷物等の取り違いを防ぐこともできます。
- 「2mの距離」を常に意識してください。「2m」とは、成人2人が両手を大きく広げて、指先が余裕をもって当たらない距離です。休憩開始や活動開始のタイミングに時差を設けるなどして、大勢の人が一斉に動かないようにしてください。例えば、半数が休憩・半数が練習、といった時差を設けることで、練習だけでなく、準備運動や休憩中も社会的距離を大きく確保することができます。
- 「手洗い」は最も重要で基本的な感染防止策です。外出時や帰宅時だけでなく、活動開始時・終了時に（休憩前後も）、せっけんで十分に（流水で30秒程度）手洗いをするのはとても重要です。活動参加時の新たなルールとしてください。手洗い口（水道蛇口数）に限りがあるのであれば、前述のように時差を設けるなどして、全員が十分に手洗いできる環境を整えてください。
- 会議は「オンライン」で。縫製や工作は「テレワーク」で。会食を「自粛する」など、3密を避ける取り組みは、これからも継続してください。



ビデオ撮影時のポイント

- テレどまつりに作品を投稿するために、振付を作ったり、作り直したりする際には、「2m以上（最低1m）」を意識してください。ただし、物理的距離が離れていない映像作品が、認められないわけではありません。
- 遠近法や編集技法を駆使することで、物理的距離が離れていても、近くに見せることもできます。
- 全編を新たに撮影しなくても、例えば過去の映像をその一部に使っていただくことも、もちろん可能です。
- 地域によって、練習や撮影の際に求められる基準も異なることと思います。集団でのパフォーマンスを映像に収められない場合は、場合によっては一人ひとりのパフォーマンスを映像に収めて、動画編集によって魅せることも検討してみてください。離れた場所においても、一緒に祭りに参加できるところが、テレどまつりの最大の魅力です。



常に情報収集を

感染の状況は常に変わります。このガイドラインの内容も見直される時期が来ます。政府や自治体からの情報を注視しながら、安全を第一に活動を続けましょう。どまつりからも随時情報を発信していきます。

公益財団法人 につぼんど真ん中祭り文化財団

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-16-33 日経ビル2階 TEL: 052-241-4333 mail: info@domatsuri.com

